

事務事業事後評価シート[平成30年度事業]

1. 基本情報

■事業の担当課	商工部産業雇用支援課		■担当係	産業連携係
■評価事業名称	新事業創出支援事業補助金			
■事業開始年度	平成28年度			
■評価事業コード	060200 - 124	■会計区分	一般会計	
■総合計画での位置づけ	■政策	03 ひと・技・資源を組合せ活気うまれるまちづくり		
	■基本施策	01 産業間連携の促進		
	■施策	01 次世代につながる産業間連携の促進		
■事業の類型	06 負担金・補助金(任意・ソフト事業)	■政策・業務区分	政策	
■法令の根拠区分	法令に定めはあるが任意の自治事務			
■法令等の名称	北上市新事業創出支援事業補助金要綱			
■関連計画の名称				
■事業の目的と概要	産業の枠を取払い、連携による新事業の創出を促進するため、これまで工業分野、農業分野で区分していた同種の補助金を一本化したもの。			

2. 細事業の活動実績情報

細事業コード	細事業名称	事業の対象	平成30年度事業計画	平成30年度事業量実績
01	新事業創出支援事業補助金	事業者	対象案件: 6件、6,000,000円	対象案件: 6件、5,788,000円

3. 投入コスト情報

(単位:千円)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	備考
直接事業費		4,341	4,741	5,811	
人件費	223	1,952	4,655	2,843	
その他(公債費・減価償却費等)					
フルコスト	223	6,293	9,396	8,654	

4. 評価指標等の状況

指標コード	指標名	27年度	28年度	29年度	30年度	指標の説明
01	交付件数		6件	5件	6件	

事務事業事後評価シート[平成30年度事業]

5. 事後評価(「政策」事業類型5・6のみ)

■目標達成状況

- A. 順調
- B. 概ね順調
- C. 遅れている

達成状況の分析

補助事業開始当初は製造業、商業、農業分野の事業だったが、平成30年度は観光業等のソフト事業にも交付し、多様な産業を支援している。また、事業者同士の連携による商品開発や、農産物のブランド化を図る事業等が生まれている。

問題点・課題等

新事業が継続していくことが重要。フォローアップのため、平成30年度からは産業支援センター及び農業支援センターへの相談を必須とした。

1. 直接的な受益者の範囲

- 不特定多数に及ぶ
- 特定されるが多数に及ぶ
- 特定少数に限定される

2. 国・県・民間との競合関係の有無

- 類似の事業はない
- 類似の事業はあるが競合はない
- 類似の事業があり競合する

3. 事業廃止の影響・貢献度

- 事業の廃止により重大な問題が発生する
- 事業の廃止により何らかの問題が発生する
- 事業の廃止による問題は想定されない

4. 市民生活・企業活動への貢献度

- 市民生活・企業活動の維持に不可欠
- 市民生活・企業活動の維持に一定程度貢献している
- 市民生活・企業活動の維持への貢献度は低い

5. 事業廃止の影響を受ける受益者の割合

- 1. で選択した人の大多数(70%程度)
- 1. で選択した人の半分程度(50%程度)
- 1. で選択した人の少数(30%程度)

6. 事業へのニーズの変化

- ニーズが高まっている
- ニーズは変わらない
- ニーズが低下している又は合致しない

7. 施策の改善需要度(市民意識調査)

- 順位が高い
- 順位が中程度
- 順位が低い

8. 施策の優先度(市民意識調査)

- 順位が高い
- 順位が中程度
- 順位が低い

9. 他市町村に比較しての優位性

- 先進的またはユニークな事業である
- 他と同程度の事業である
- 遅れている事業である

10. 実施主体の代替性

- 民間委託等の拡充は難しい
- 民間委託等の拡充が十分に可能
- 全部委託や実施主体の移行が可能

11. 経済性・効率性の向上

- 今以上の効率化や改善は難しい
- 効率化や改善を図ることは十分に可能
- 効率化や改善の余地が大きい

■事業の見直し方策(評価項目2,4の補足説明含む)

県等に類似の補助金は存在するが、幅広い経費を補助対象としている点で優位性がある。毎年予算額の1.5~2倍の応募があり、ニーズはあると考えられる。平成31年度はファンドへの出資のため予算額を半額としたが、今後も本事業は継続する予定。

■今後の方向性

- I. 拡充
- II. 継続
- III. 縮小
- IV. 廃止・休止
- V. 完了